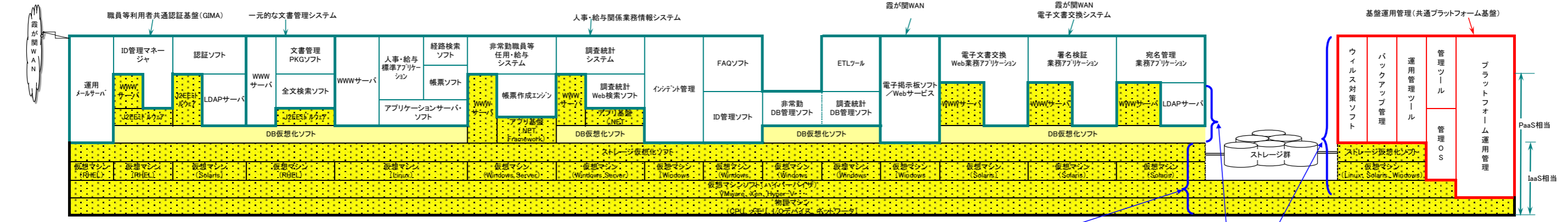


共通システム系の統合・集約後のイメージ

【注】同種の仮想マシン (RHEL、Windows Server、Solaris等同じ種類のOSを動作させる環境)を使用する業務アプリケーションを一つの仮想マシン上で動作させるには、プロセス間のハードウェア、ネットワークサービス等の競合、セキュリティ対策、障害時の影響等について検討する必要がある。



【前提条件】

- 上図は当該システムの機器一覧を参照して記載したものであり、各ブロックの位置付けや依存関係は極力簡略化した表現としています。
- LANスイッチ、ルータ、負荷分散装置、ファイアウォール等ネットワーク機器は省略しています。
- サーバを含む機器の数量等は便宜上、省略しており、またPC端末、OAソフト、UPS管理ソフト等、機能上小規模なものも省略しています。
- サーバが配置されるべきセグメント (LANの分割) の区別は省略しておりますので、各システムの配置は必ずしも上図と同じではありません。

- 物理サーバ、ストレージの仮想化及び共有によるハードウェアの台数削減 (ハード資源の効率化)
- DB、WWW等共通ミドルウェアの統合によるSI構築の簡素化 (府省側の負担軽減)
- 運用管理の一元化による運用の効率化 (府省側の負担軽減)
- 仮想化技術の活用及び分散システムの統合的な運用管理による可用性、拡張性の向上 (自由度の高い可用性、拡張性を府省側に提供可能)